



THCU Chronicle *Heart* No.23 Spring 2017

第23号



特集 平成30年度に 2つの看護学部を設置構想中!!

平成27年12月に本学は開学10周年記念祝賀会を開催した。多数のご参加者の方々に祝意を表され、本学の第二章の扉が開かれた。平成28年度を迎えると第二章にふさわしい動きが相次いで現れてきた。これらの経緯を含め、2ページに関連する記述を掲載しているので、ぜひ一読いただければ幸いです。

CONTENTS

目次

- 2 ・新たな飛躍へ 和歌山看護学部(仮称)の設置構想
千葉看護学部(仮称)の設置構想
- 3 ・第12回医愛祭が開催されました
・女子バスケットボール部の活躍について
- 4 ・公開講座「逆境を乗り越える力、折れない心
(レジリエンス)をはぐむー実践編ー」を行ってみて
・パフォーマンス評価に関する講演会を開催しました
医療保健学部 看護学科
- 5 ・平成28年度 医療栄養学科卒業研究発表会
医療保健学部 医療栄養学科
- 6 ・アメリカやインドネシア等の
医療関係者との国際交流
・平成28年度 医療情報ゼミ 発表会
・平成28年度 医療情報学科 卒業研究発表会
医療保健学部 医療情報学科

- 7 ・「ひがしが丘保健室」 始まりました!
・災害訓練に参加し、見事被災者役を演じた学生達
東が丘・立川看護学部 看護学科
- 8 ・感染制御学研究センターと連動して
新しい潮流を…
・院生の声
大学院 医療保健学研究科
- 9 ・完成したシミュレーション室を活用し
NP教育の質向上を図っています
・助産師の人材育成に係わるようになって
大学院 看護学研究科
- 10 ・入試広報部
平成29年度オープンキャンパス等日程
- 11 ・平成28年度公開講座実施結果について
・国際交流
- 12 ・Topics

平成30年度は、本学にとって大きな転換を迎えることになるだろう。

以下に記述するように、和歌山県和歌山市及び千葉県船橋市のそれぞれにしかも同時に新しい看護学部を設置する構想が進んでいるからである。

現在（平成29年3月）は、大学の学部設置のための手続きを行っている段階であり、申請書類の調整などを行っている。近日中には正式に提出し、認可を心待ちにする状況である。新たな大学の飛躍を目指す構想について簡単ではあるが紹介させていただきたい。

和歌山看護学部（仮称）の設置構想

平成28年5月30日、和歌山県、和歌山市、日本赤十字社和歌山医療センター及び学校法人青葉学園 東京医療保健大学の4者は、和歌山県知事室において平成30年4月を目標とし、和歌山市内に4年制の新しい看護学部を設置する方向で合意するとともに協定書への調印式を挙行了。新学部は和歌山市内に2か所のキャンパスを設け、1学年90人の定員で発足させる構想とした。

これは、若年層の県外流失傾向を改善し、「地学地就」（地域で学び地域に就職すること。）を実現するため及び和歌山県内での看護師不足に対応するため、和歌山県を挙げて本学の誘致に積極的に取り組んだ結果といえる。本学もその趣旨に賛同し、病院との連携及び協働して教育に当たる態勢を重要視してきた立場から日本赤十字社和歌山医療センターという最高のパートナーを得て今後の看護師育成への更なる自信を深めたところである。

この後6月初めには、同医療センターの施設内に新学部設置準備室を、同時に東京品川の五反田キャンパス内にも設置準備室を置き、諸々の準備（カリキュラムの構築、教員の確保、施設・設備の

整備、奨学制度の充実、ニーズ調査等）を推進してきた。現在は、現地及び東京でそれぞれの役割分担に基づいて準備作業に当たっている。

また、平成28年の秋以降には国の大学設置・学校法人審議会の大学設置分科会に対する学部設置届出申請並びに収容定員に係る学則変更認可申請、文部科学大臣が指定する看護師学校等の指定申請、養護教諭に係る教職課程認定申請等の手続きに対応し、文部科学省の大学設置室担当者等との事務相談あるいは大学設置分科会運営委員会に対する事前相談を経て、今号の発行予定日（29.3.21）後には学部設置届出に係る正式な申請書類を提出する運びであり、早ければ5月末から6月中旬にも認可を得られることが期待されている。

さらに、認可後には学生募集業務を中心に新学部の運営に関する細かなプランが必要であることから、設置までの残された期間の中で最大限の努力を払い、新たな側面での看護師育成に取り組む高等教育機関としての責務を果たしたいと考える。

千葉看護学部（仮称）の設置構想

平成28年11月22日、独立行政法人地域医療機能推進機構（以下「JCHO」という）及び学校法人青葉学園 東京医療保健大学は、東京都港区高輪のJCHO本部において、千葉県船橋市に4年制の新しい看護学部を設置（平成30年4月目標）する方向で合意、協働事業協定書への調印式を挙行了。新学部はJR西船橋駅から徒歩12分の地にある、「JCHO船橋中央病院附属看護専門学校」及び隣接する「JCHO本部研修センター」の土地・建物等をキャンパスとして活用し、1学年100人の定員で発足させる構想とした。

2025年に団塊の世代が後期高齢者になる等、日本が直面する少子高齢問題は皆さまご高承のとおりであり、先進国の中で真っ先にこの問題の解決に道筋を付けなければならない日本に世界中が注目している。そのような状況下、地域医療・地域包括ケアの要として「超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え地域住民の生活を支える」との使命を帯びているJCHOは、医師などの多職種と積極的に協働し、これからの医療・看護・福祉の主要なテーマに先駆的に取り組み、その地域医療・地域包括ケアの要となることができる看護師の養成を標榜。

その方向性は本学の教育目標「時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える医療関係の課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決できる人材の育成」にも通じるものが

あり、その趣旨に賛同。昨年7月に協働事業の担い手として応募し、8月に本学が協働事業契約者として決定した経緯にある。全国に多種多様な豊富な臨床施設を有するJCHOはハード・ソフト両面において強力なパートナーであり、協働事業の成功を確信するものである。

この3月には、JCHO研修センター内に千葉看護学部（仮称）設置準備室を移し、開学に向けての準備作業を加速。和歌山看護学部（仮称）と同様に各種の申請に対応、5月末から6月中旬にも設置認可を得て、平成30年度開設とその後の看護師育成に向け、責務を果たす所存である。



第12回医愛祭が開催されました

2016年11月5日(土)、6日(日)に第12回医愛祭が世田谷キャンパスで開催されました。今年のテーマは「飛翔」です。開学10周年を迎えた昨年は「船出」というテーマで実施した医愛祭でしたが、私たちは新しい10年に向け「さらに高い目標をもって、ひとりひとりが夢に向かってはばきたい!」という気持ちを込めてこのテーマにいたしました。今年の実行委員会は1,2年次生が主体となり活

動してきましたが、右も左もわからない状況で多くの不安や悩みもあり、部門間でも上手く連携を取ることが出来なかった事など、今後の医愛祭に活かす反省点もありましたが、さらなる飛躍を目指した実行委員一人ひとりの挑戦や努力により、「飛翔」というテーマのもと、大学祭を無事大成功に導くことができました。次年度の医愛祭もご協力ご支援の程よろしくお願いいたします。



左：学友会長の木島楓さん（東が丘・立川看護学部看護学科3年次生）
右：大学祭実行委員長の保坂聖也さん（医療保健学部医療情報学科2年次生）



第12回医愛祭実行委員会の皆さん

女子バスケットボール部の活躍について



第68回全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）に出場しました。初戦は大田区総合体育館で名門山形大（東北リーグ1位）と対戦し初戦突破。続く大阪体育大（関西リーグ2位）に勝利。会場を代々木競技場第二体育館に移し愛知学泉大（東海リーグ1位）、早稲田大（関東リーグ1位）と強豪校を破り、インカレ連続5度目の出場で初めて決勝に進出しました。惜しくも敗れはしたものの初の準優勝を成し遂げることができました。

また、国内最高峰の大会、第83回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会（オールジャパン）に出場しベスト16となりました。

公開講座「逆境を乗り越える力、折れない心 (レジリエンス)をはぐくむー実践編ー」を行ってみて

平成28年11月20日(日)、午前10時から正午までの120分、東京医療保健大学五反田キャンパスG109教室にて、公開講座「逆境を乗り越える力、折れない心(レジリエンス)をはぐくむー実践編ー」を行いました。品川区内外から60名の方々に参加して頂きました。

昨年度の公開講座「逆境を乗り越える力、折れない心を育てるーレジリエンスとは何かー」で続編の要望がありましたので、それに応えて、今年の内容は「いろいろなことがありながらも心をしなやかにして乗り切っていくにはどうしたら良いか、日常でできる具体的な方法を知る」ことを目的に、レジリエンスとは何か簡単にお話しした後、認知行動療法やマインドフルネスを取り入れたワークを実際に行う、というものでした。

アンケートでは、9割近くの方に「とてもわかりやすかった」「と

てもためになった」と回答していただき、講師もホッと胸をなでおろしています。昨年も参加された方が4名もいらして「昨年の講座を受講しました。続けての講座受講で、理解が深まりました。色々と今回のために工夫していただいた事に感謝いたします。」とあり、とてもうれしく思いました。

認知行動療法を取り入れたワークでは、自分の思い込み、考え方のクセに気づいて、「日常に役立つ内容でした。自分でもワークに取り組みたいと思います。」「日々の生活の中で参考にさせていただきます」という意見を頂き、日常でできる具体的な方法を知るという目的は達成できたと思いました。

マインドフルネス体験では、総勢60名にもかかわらず、静寂なおちついたひとときを過ごすことができました。「大変良い講座でした。安らくなる方法に少し気づかされました」「とても良かった。愛と優しさのメディテーションが広まると良いと思いました。」と満足が高く、マインドフルネスへの関心の広がりを肌で感じたひとときでした。

「ぜひまたお話聞きたいです」「次回を楽しみにしています」という温かいアンケート結果を読んで、講師自身も日頃、ちょっとした逆境はあり、落ち込みそうになることもあるのですが、また頑張ろうという気になって、皆さんにささえられていることを実感しています。



スライドを使い説明する秋山准教授

医療保健学部 看護学科 准教授 あきやま みき 秋山 美紀

パフォーマンス評価に関する講演会を開催しました

2017年1月6日(金)に、五反田キャンパスにて京都大学教育学研究科 准教授 西岡加名恵先生を講師としてお招きし、「パフォーマンス評価の考え方と進め方ーパフォーマンス課題とループリックの活用ー」をテーマとする講演会を開催しました。平成27・28年度看護学科特別研究費「看護学科臨地実習のループリック作成」の助成を受けた本講演会は、任意参加で年始での開催であったにもかかわらず、看護学科教員の約半数が参加しました。

講義では、西岡先生がこれまでに関わられた看護学校でのループリックの具体例が豊富に提示されるとともに、詳細かつ具体的な解説をしていただきました。担当実習科目毎のグループワークでは、実際の講義科目のパフォーマンス課題を作成して教員間でディスカッションをする時間も設けられました。グループ内での活発な

意見交換によって、講義で得た知識をさらに深めることができました。さらに、それぞれのグループの発表を全体と共有することで、相互の科目の状況の理解も進めることができ、大変充実した講演会となりました。

参加者からは「ループリックについての知識が整理された」、「具体的な活用方法のイメージがついた」、「本質的な問い」が大切であるということが理解できてよかった」、「講義内の課題を考えていたので、早速活用したい」等の感想が聞かれました。

講演会の成果は、今後の本学の講義・実習等での教育活動および、特別研究費の助成を受けた研究課題に活用していく予定です。

医療保健学部 看護学科 講師 にしがき かおり 西垣 佳織



平成28年度 医療栄養学科卒業研究発表会

卒業研究発表題目一覧

医療栄養学科では、卒業研究の口頭発表会を開催しております。28年度は11月28日に行われました。意欲ある学生が、日頃熱心に研究に取り組んだ成果21演題を発表しました。

発表者の4年生、聴講者の3年生で、活発な討論が行われ、充実した発表会となりました。

●五百蔵良研究室

『有用微生物の探索－果実からの野生酵母の分離と製パンへの応用－』

『有用微生物の探索－花からの植物性乳酸菌の分離と発酵乳への応用－』

●碓井之雄研究室

『自分が実行した食事と運動によるダイエット法の結果報告』

『中学チアダンス部員への栄養サポートの試み』

『低炭水化物ダイエットから考える世界各国の炭水化物消費量について』

●大道公秀研究室

『食品炭化物のステロール分析からの古代食解明への挑戦』

『酵素反応を利用したパツリングルコシド生成へのアプローチ』

●神田裕子先生

『就業女性の月経周期に対する大豆イソフラボン・エクオールとの関連性について』

●北島幸枝研究室

『透析患者のエネルギーやたんぱく質の補給を目指したおやつ作成』

●小城明子研究室

『食品摂取による口腔内刺激と脳活動の活性化について』

●齋藤さな恵研究室

『「幼児期の食習慣と生活習慣」に関する横断的調査』

『粉豆腐を用いたシフォンケーキのレシピの検討』

●西念幸江研究室

『ブルーリーの活用方法に関する提案』

●清水雅富研究室

『鉄欠乏状態から惹起される脂質代謝異常が生体に及ぼす影響』

『管理栄養士国家試験合格を目指したセルフモニタリングの効果』

●鈴木礼子研究室

『未就学児のビタミンC摂取量の現状評価～秤量法の食事調査』

『こどもの食環境と鉄摂取量の横断的調査』

『未就学児の食物繊維摂取量の横断的調査～食事記録票評価』

●細田明美研究室

『幼児期の食習慣が咀嚼に及ぼす影響について』

●三舟隆之研究室

『古代における鰯の加工と栄養分析』

『古代におけるイノシシ肉の加工・保存法』

(指導教員五十音順)

学生による学会発表（研究・実践報告）

他にも学生が研究・実践活動を外部発表したものを紹介します。

●第76回 日本分析化学会 分析化学討論会

平成28年5月29日 岐阜薬科大学

・『古代食解明を目的とした調理後炭化物の理化学分析』

小林孝洋（大道研究室）

●第63回 日本栄養改善学会学術総会

平成28年9月7～9日青森：リンクステーションホール青森

・『大豆食品摂取状況とエクオールの関連性について』

小高絵里、紀田七穂（神田研究室）

・『未就学児のビタミンC摂取量の現状評価～秤量法による食事調査～』 山岸萌、牧野あかり、矢藤真代（鈴木研究室）

・『こどもの食環境と鉄摂取量の横断的調査』

牧野あかり、山岸萌、矢藤真代（鈴木研究室）

・『未就学児の食物繊維摂取量の横断的調査』

矢藤真代、牧野あかり、山岸萌（鈴木研究室）

●第8回 せたがや福祉区民学会大会

平成28年11月26日東京都市大学

・『障害者支援の活動』 矢藤真代

・『玉川ボランティアビューローでのバザーにおける軽食提供』

山岸萌、牧野あかり（鈴木研究室）

・『大学生が地域で活動するために必要なこと』 橋本茉依

(学会開催日順、学生名と研究室名のみ表示)

第8回日本静脈経腸栄養学会首都圏支部学術集会



平成28年5月28日(土)日本教育会館で、第8回日本静脈経腸栄養学会首都圏支部学術集会（大会長：小西敏郎本学副学長・医療栄養学科長）が開催された。「選ばれる病院となるためのNST活動－応えられる管理栄養士の育成を目指して－」をテーマに教育講演、特別講演、シンポジウム他、32の一般演題からなる充実した内容となり、多職種の方々の参加と活発な討議のもと盛会となりました。

学生献立：東京都福祉保健局 HP に紹介



平成28年度東京都食生活改善普及運動「野菜たっぷりバランス弁当メニュー」企画の一環として、本学3年生が作成した『ボリュームたっぷり満足弁当』が東京都福祉保健局HPに紹介されました。都庁1階アートワーク台座でも平成28年9月に写真で紹介されました。

アメリカやインドネシア等の医療関係者との国際交流

2016年10月12日から14日まで東京国際フォーラムで診療情報管理協会国際連盟（IFHIMA）の第18回国際大会が開催され、医療情報学科1～3年生約190名が、運営ボランティアとして参加しました。大会前日の10月11日には、五反田キャンパスにおいて、本大会のために来日した米国保健福祉省公衆衛生局のGodwin Odia博士による「公衆衛生局における診療情報管理士の役割」と題する特別講演が行われ、医療情報学科3～4年生13名が聴講しました。



Godwin Odia博士による特別講演 記念撮影

また、2016年12月7日には、日本とインドネシアの経済連携協定（EPA）に基づく同国の介護福祉士候補者30名が世田谷キャンパスに来学し、特別講義・演習を受講しました。具体的には、病棟や介護現場での情報システム、患者シミュレータ、介護場面での自助具の体験を行いました。また、それぞれの将来像などについてグループワークを行い、参加した医療情報学科及び医療栄養学科の学生25名と交流することができました。修了後には、石原学科長より修了証書が授与されました。



修了証書授与

平成28年度 医療情報ゼミ 発表会

医療情報学科では2016年12月19日、3年次生による医療情報ゼミの発表会を実施しました。昨年度に引き続き、国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟小ホールにて執り行いました。7ゼミ54件の取り組み成果が報告され、ゼミの受講生、本学科2年次生、学内関係者に加え、病院実習・企業実習先の関係者の皆様にもご来場いただき、活発な質疑応答が行われました。

ゼミ	発表件数
津村ゼミ	2件
比江島ゼミ	5件
瀬戸ゼミ	5件
駒崎ゼミ	4件
深澤ゼミ	13件
山下ゼミ	12件
今泉ゼミ	13件



ゼミ発表会の様子

平成28年度 医療情報学科 卒業研究発表会

医療情報学科では2017年1月18日に学内にて、口頭による卒業研究発表会を実施しました。9月の中間発表を経て、1年間にわたり取り組んだ各自の研究結果が発表されました。今年度は、3ゼミから以下の8件の発表がありました。ゼミを共にしてきた4年生、これから卒業研究に取り組む3年生、教職員等およそ100名が参加し、活発な質疑応答が行われました。

発表題目一覧

●今泉ゼミ

- 「歩行と走行の移動速度が人の時間知覚に与える影響」
- 「スマートフォン操作時の作業内容による最適通知タイミングへの影響」
- 「外国人医療従事者のための疑声語習得支援アプリの開発」

●山下ゼミ

- 「高齢者の口腔機能改善による生活機能評価に関する研究」

●比江島ゼミ

- 「診療情報管理士を目指す人のための基礎・医学編学習支援ツールの開発」
- 「QRコードを用いた実践的統計教育アプリの開発」
- 「東京都における医療圏別患者数とDPCデータを利用したハフモデルの検討」
- 「ランダム化比較研究によるBGMの集中力への影響の評価」

(発表順)

「ひがしが丘保健室」 始まりました！

本学部臨床看護学コース（東が丘）では、地域交流と社会貢献をめざし、平成28年度から「ひがしが丘保健室（まちの保健室）」を始めました。

第一回目の9月16日（金）は、通常食堂として使用している3つの大部屋をすべて開放し、メタボ予防体操、介護予防体操、経口補水液づくり、血管年齢測定、骨密度測定、物忘れチェック、足の把持力測定、アロマテラピー体験等を、総勢50名の学生と教職員で開催しました。地域看護学領域の教員が企画し全領域の教員が見守る中、ボランティアの学生が中心となり運営してくれました。さらに、福祉用具業者や目黒区西部包括支援センター職員の皆様のご協力のもと、最新の福祉用具体験や今後の継続支援に繋がる総合相談も行ことができました。

可能な限りの準備を行いましたが無端とは言い難く、さらに時折小雨の降る生憎の天候でしたが、地域を支える民生委員・児童委員さんや自治会長さん、地域住民の皆さま37名が参加してくださり、



評価のお言葉と継続のご要望を多数いただきました。

今回は3月17日（金）10時から16時に開催します。メタボ予防体操の代わりに、自分自身と向き合いながら無理なく体幹を鍛えることができる「ピラティス」体験コーナーを設けます。また、「腰痛予防」や「良肢位（良い姿勢）の保持支援」で注目されている「ノーリフトケア※」のミニ講演と体験演習ができるコーナーも設置します。それぞれの専門家が特別にボランティアで参加・協力してくださいますので、腰痛予防に関わる専門家の皆様にも楽しんでいただけたと思います。

また、前回に引き続き、血管年齢測定や骨密度測定、アロマ体験等は学生が中心となって運営します。地域で生活している皆様と交流させていただくことで、学生は多くの気づきや学びを得る良い機会となります。目黒区をはじめ近隣住民の皆様と共に、学生を育てていくことができれば幸いです。

平成29年度は、公開講座「安心なお産のために（仮題）」と「ひがしが丘保健室」のダブル開催を企画しており、規模を拡大しながら継続して開催していく予定です。災害看護学コース（立川）でも、開催に向けて準備を進めており、それぞれの地域の皆様の健康の維持・増進と学生の学びのために、教員も力を注いでまいります。

目黒区の後援を得ておりますので、今後の開催日時につきましては、区報やHPでご確認いただくと幸いです。皆様のご参加をお待ち申し上げております。

※ノーリフトケア：持ち上げない、抱え上げない看護・介護

東が丘・立川看護学部 看護学科 臨床看護学コース
准教授 石田 千絵

災害訓練に参加し、見事に被災者役を演じた学生達

2016年9月、立川キャンパスに隣接する国立病院機構 災害医療センター（災害拠点病院）で行われた大規模な災害訓練に、災害看護学コースの学生126名が被災者役（模擬患者）のボランティアとして参加しました。

災害訓練では、模擬患者がいかにリアルにその役に徹し、真剣にその役を演じ切るかによって、より臨場感があふれ、災害訓練の質が高められます。災害訓練の良し悪しは学生の演技力にかかっているといっても過言ではありません。

朝、8時前、やる気満々の学生が大学に集合してきました。

その後、学生それぞれに被災者役が与えられましたが、学生たちは軽症の患者よりも重症の被災者役を好み、また、ひとりの学生が2役の被災者をこなすこともありました。中にはやりたい被災者役が得られず、病院スタッフに直談判し、新たな被災者役を作ってもらった学生もいました。その後、学生は病院スタッフから演技指導を受け、特殊メイクをして被災者になりきります。

午後1時、いよいよ災害訓練がスタートしました。自分の出勤時間を今か今かと控室で待ち続け、病院スタッフからの演技指導の内容を、何度も何度も確認し、訓練に備える学生達の緊張が教員にも伝わってきました。

災害訓練の現場では、それぞれの学生が被災者役になりきりました。病院入口で病院スタッフの制止を振り切り、院内に入り込み、我一番に治療を受けようとするわがままな被災者役を演じる学生に

は、病院スタッフもタジタジでした。一方、病院の中に入れてもらえない被災者役の学生は団結して大きな集団を作り、病院スタッフに挑んでいきました。どこで覚えたのか、野次馬のような様相も演技していました。中に入れてもらえず、門前払いをされてもどってきた学生は、今度は、医療支援のボランティア役となり、病院スタッフの手足となって、炎天下の中、被災者を受け入れる簡易ベッドの作成や被災者の搬送役として活躍してくれました。

印象深いケースを紹介します。病院内に入れず、院外の簡易ベッドで長時間にわたり、治療を待たされている被災者役をした学生がいました。その学生は訓練の最初から最後まで「痛いよ〜」「痛いよ〜」と大きな声で叫び続けるという役で、見事に長時間、叫び続けました。スタッフからの「もう少しだ、頑張れ」という掛け声を無視して、叫び続ける学生は見事でした。

近年、災害が多発し、いつどこで学生も含め、私たちが被災者となるか、救援者となるかわかりません。東日本大震災では現地の看護学生が大活躍しました。災害看護学コースの学生たちには、災害発生現場において、専門性を発揮した看護職としての活動ができる能力の習得も期待されています。今回の貴重な体験がこれからの学習に活かされると思います。

東が丘・立川看護学部 看護学科 災害看護学コース
教授 久保 恭子 助手 土屋 沙織

感染制御学研究センターと連動して新しい潮流を…

バクテリアが最初の生きた有機体であることが34億年前の化石記録として残っている。その後、藍色細菌であるシアノバクテリアが光合成により酸素を産生し、地球上は空気で覆われた。オゾン層も形成され、地表は有害な紫外線・放射線から保護されるようになった。さらに長い進化の過程を経て、ホモサピエンスは19万年前に誕生した。つまり、ヒト族は微生物があふれる世界に生を受けたことになり、微生物との共生なしに生きていけない宿命であると考えべきである。現に口腔から肛門までの消化管をはじめ皮膚表面などには、常在細菌叢が形成されている。



抗ウイルス効果試験前にD3の神明さんと

細菌・藻類・真菌・ウイルス・原虫が主要な微生物であるが、ヒトに対して病原性を有するものは、細菌・ウイルスが大部分を占め、一部の真菌と原虫が時に問題となる。この病原性を有する微生物に起因する病院感染の拡大の防止に関する研究分野が感染制御学で

ある。感染とは、体内で病原体が増殖している状態のことであるが、発症するかどうかは微生物の病原性と宿主の抵抗力とのバランスに左右される。

医療施設での適切な感染制御（Infection Control）の実施には、感染源の特定と対策、感染経路の遮断が重要である。そのためには、微生物の性状と、消毒薬や洗浄・消毒・滅菌機器の性能及びその使用方法について正しい知識を持つことが大切である。さらに、開発から医療現場まで網羅的に、感染制御について教育・普及を行う場が必要である。この目的のために、大学院・感染制御分野では、感染制御学研究センターと協働して活動している。すでに、インフルエンザウイルスやアデノウイルスなどのウイルス、食中毒原因菌や黄色ブドウ球菌、抗酸菌などの細菌、カンジダや水虫の原因菌である白癬菌などの真菌、原虫であるアカントアメーバなどの培養系を確立し、殺菌・抗ウイルス効果などの検証を行っている。さらに、各種分析装置を使用した抗微生物効果を示す活性種の解析も可能にしつつある。これらの基礎的な解析をもとに、よりデータに基づいた感染制御に対する教育・普及活動ができることを望んでいる。

大学院 医療保健学研究科 教授 いわさわ あつお 岩澤 篤郎

院生の声



私は大学院医療保健学研究科の博士課程（看護学）に在籍しております。現在、育児期間中の母親の多くが悩みを抱え、育児をしています。SNS等の発達で、育児に関する情報を手軽に得ることはできますが、情報が多すぎて振り回されているように感じます。本来育児は決して楽ではないが、子どもの成長を通して、多くのことを経験することができ、楽しさがあるのに、それを感じることができないで、苦しんでいる母親がいるのではないかと思います。日本は、急速に少子高齢化が進んでおり、また子どもが少ないということだけでなく、乳幼児の虐待も大きな社会問題になっています。臨床で助産師として勤務していた頃は、日々の業務に追われ、目の前にいる妊婦・産婦・褥婦さんのことで精一杯であり、その先

のことまでは、あまり考える余裕がなかったように思います。現在は臨床から離れ、短大の母性看護学の教員として、学生と共に授業・演習・実習を通して母性看護を考えております。私は、育児期にある夫婦に関しての研究を進めております。ご指導していただいているご担当の教授をはじめ、諸先生方とディスカッションを通して、経験から物事を伝えるのではなく、アカデミックに物事を考えること、それを論理立てて伝えること、証明するにはどのような方法があるのかなど、多くのことを考え、学んでおります。まだまだ研究を進めていくには困難なことは多いとは思いますが、女性が安心して妊娠・出産・育児を行なうのに、役立てていけるような研究が行えるように頑張っていきたいと考えております。

医療保健学研究科 博士課程2年 看護学領域 うちだ たかね 内田 貴峰



私は大学院で学習することが、自分の夢のひとつでした。現在、がん専門病院で管理栄養士として勤務していますが、管理栄養士も実務とともに研究を行います。今までの私は、臨床研究を学会で発表をした後に、研究をまとめて論文化することが出来ていませんでした。

幸いにして、2016年4月から大学院で学ぶという夢が叶い、医療保健学研究科修士課程で小西敏郎教授をはじめとした諸先生方に、ご指導を頂きながら自分の研究をまとめて論文を作成していくプロセスを学習する機会を与えて頂きました。入学してからすでに10ヶ月が過ぎましたが、社会人が仕事をしながら修士の勉強を出来るように計画された履修スケジュールは、休日など自分の時間を利用して学習できるため、職場への負担が少なく、大変助かっています。

今年度の医療栄養学領域の院生は3名で、他2名の院生も病院勤

務であり、大学院の講義の度にそれぞれの施設での実務の事や大学院での講義や宿題などについて話し合う機会が多く、お互いに情報交換し知識を深め合う環境を頂いています。入学当初は、講義についていけるかどうか不安でしたが、先生方から論文の「探し方」と「読み方」と「書き方」、研究の「方法」と「発表のプレゼンテーション」を中心に基礎的な部分からご指導いただき、ようやく、自分の研究の第一歩を踏み出す準備が出来た次第です。私の研究テーマは、がん患者に対する管理栄養士の活動とその効果を検証していくことです。臨床に即した内容で論文を作成したいと計画しています。当大学の「建学の精神」を心に、残りの1年間で論文をまとめて無事修了できるように日々精進して参りたいと存じております。

最後に、2年間という限られた時間の中で、社会人が学習しやすい環境をご提供頂いている大学院の教職員の方々と支えてくれている家族に感謝致します。

医療保健学研究科 修士課程1年 医療栄養学領域 なかはら たかし 中瀬 孝志

完成したシミュレーション室を活用し NP教育の質向上を図っています

本学修士課程の高度実践看護コース（診療看護師教育）も今年3月で6回目の修了生を社会に送り出すことができ、合計約120名のNP（診療看護師）が医療実践現場で活躍することになります。この間、東京医療センター、災害医療センター、東京病院等のご協力、ご支援により、NP教育の質向上に努めてまいりました。

この度、臨場感のあるシミュレーション教育を行うための演習室が完成いたしました。昨年度までは、外部の施設をお借りして行ってきたシミュレーション教育を学内で行うことができるようになりました。このことにより、従来は大学院在学中に1度しか経験できなかった演習を必要な時にいつでも実施できるようになりました。

シミュレーション教育を行う演習室には、高機能患者シミュレータ“シムマン 3G”、デジタルビデオカメラ、録画・編集機器、観察者用大画面モニター、遠隔操作室を設置しています。“シムマン 3G”は痙攣、光に反応し縮瞳や散瞳する瞳孔、涙・汗・尿といった体液の流出、口頭や舌の浮腫、チアノーゼを再現でき、クリティカル領域で遭遇しそうな状況を作り出せることが特徴です。また、演習室を医療現場の雰囲気近づけるために、実際の救命救急センターの初療室を撮影した写真をロールスクリーンに印刷し、それを演習室の天井から吊り下げて、まるで臨床現場にいるかのような臨場感溢れる空間に仕上げました（写真参照）。天井吊り式のビデオカメラを3台備えたことで、あらゆる角度からの撮影が可能となり、学生の手先を撮影した映像とチーム全員の動きを撮影した映像を同時録画

して、その映像を観ながら自分のパフォーマンスを振り返ることができるようにしました。シミュレーション教育に携わってきた医師や修了生、そして、大学院生からも好評を得ています。このように臨床現場により近いリアルな環境の下で学生たちは、知識・技術をブラッシュアップしていくことができます。これからも教育環境を整え、クリティカル領域のNPとして総合的な判断力、高度な実践力を備えた人材を育成していくことを常に心がけていきたいと思ひます。

看護学研究科 高度実践看護コース 准教授 やまだたくみ 山田 巧



助産師の人材育成に係わるようになって

時計の針は夜中の3時を指している。幾人かの患者さんが受診を待っている救急外来を通り過ぎ、守衛さんに見送られ、助産学生と私は実習病院を後にした。

外に出ると、北風で眠気も一気に吹き飛んでいく。夜空を眺めると、静寂の中、北風に吹かれ神々しく光る満月がそこにあった。助産学生と共に美しい満月を眺めることができるのも、助産実習の醍醐味だとしみじみ幸福感に浸れる瞬間であった。



平成28年4月から母性・助産学領域の教員として本学大学院の助産実習を担当しています。大学院生を対象とした助産学実習は、①助産学基礎実習（前期・後期）、②助産実践力開発実習、③地域助産学実習・助産所実習、と段階的に行われています。基礎後期実習は2週間の実習で、学生たちは自然分娩の

介助を集中的に学んでいます。そのため期間中は、学生も教員もオンコール体制で夜間の呼び出しもある実習です。

PHS電話を枕の横に置き、緊張して眠れない夜を幾日も過ごす場合や、日中から夜中まで産婦に寄り添ってケアを行い夜中の分娩介助を実施しクタクタになるなど、想像がつかない展開が繰り返られるのが助産の実習です。

妊産褥婦の皆さまと実習施設の指導者からの協力・支援を受け、学生たちが着実に成長していく姿を見ながら、教員冥利を味わっています。教員になって思うことは、実践の科学である看護・助産を担当している私自身が、実践に長けていなければ、助産を教え、育てることは出来ないという事です。

長年の助産師としての実務経験では、「自然分娩」「会陰切開の無い分娩」「産まれるまで妊産婦に寄り添う」など、産む女性のニーズに応え、女性が主体となる分娩介助を実践していました。この経験を教員として学生たちに伝えていきたいと思っています。

助産師は、正常経過する妊産褥婦の助産ケアを自律して実践することができる素晴らしい職業です。

少子化対策としての目標の1つである希望出生率1.8に向けて、助産師として活動してみるのはいかがでしょうか。

看護学研究科 高度実践助産コース 講師 ひらで みえこ 平出 美栄子

平成29年度オープンキャンパス等日程

日 程	区 分	備 考
平成29年6月9日(金)	高校教員対象大学説明会 (五反田)	
平成29年6月24日(土)	進学ガイダンス (五反田)	
平成29年7月9日(日)	オープンキャンパス (世田谷)	
平成29年7月15日(土)	助産学専攻科 説明会 (ミニ・オープンキャンパス)	専攻科企画
平成29年7月30日(日)	オープンキャンパス (国立病院機構キャンパス)	
平成29年8月5日(土) 平成29年8月6日(日)	オープンキャンパス (五反田)	
平成29年8月19日(土)	医療栄養学科 学科体験・見学会 (世田谷)	学科企画
平成29年8月20日(日)	オープンキャンパス (国立病院機構立川キャンパス)	
平成29年7月23日(日) 平成29年8月27日(日)	医療情報学科 見学会 (世田谷)	学科企画
平成29年9月30日(土)	入試説明会 (世田谷)	推薦入試受験者に向けた企画
平成29年10月15日(日)	東が丘・立川看護学部見学会 (国立病院機構キャンパス)	学部企画
平成29年10月29日(日)	東が丘・立川看護学部見学会 (国立病院機構立川キャンパス)	学部企画
平成29年11月3日(金) 平成29年11月4日(土)	医愛祭〈入試相談会〉(世田谷)	
平成29年11月26日(日)	入試説明会 (五反田) 一般入試教科別対策講座等 《英語・数学・化学・生物・国語》	一般入試受験者を主対象にした企画 (過去問題分析)
平成30年3月24日(土)	進学ガイダンス (五反田) (ミニ・オープンキャンパス)	新高校3年生・2年生を対象にした企画

(入試広報部)

平成28年度公開講座実施結果について

今年度実施しました公開講座の実施概要等は次のとおりです。

	平成28年度			
実施日時	28. 6. 11(土) 10:00～12:00	28. 10. 23(日) 10:00～12:00	28. 11. 20(日) 10:00～12:00	28. 12. 10(土) 10:00～12:00
実施場所	こみゆにていプラザ八潮 (品川区八潮)	特別養護老人ホーム 上北沢ホーム (世田谷区上北沢)	五反田キャンパス (品川区東五反田)	国立病院機構キャンパス (目黒区東が丘)
受講料	無料	無料	無料	無料
講座の内容	「知って得する食品衛生」	「この冬気をつけたい感染症」	「逆境を乗り越える力、 折れない心(レジリエンス)を はぐくむ -実践編-」	「最期まで自分らしく 生きるために」
講師	医療保健学部医療栄養学科 講師 大道 公秀	東ヶ丘・立川看護学部看護学科 講師 松本 和史	医療保健学部看護学科 准教授 秋山 美紀	医療保健学部看護学科 准教授 櫻井 智穂子
参加者数	31名	10名	60名	63名

国際交流 International Exchange

国際交流委員会では、平成28年度の全学合同海外研修を平成29年3月12日～19日の日程で実施いたします。今年度の参加学生は23名、内訳は医療保健学部看護学科5名、医療栄養学科3名、医療情報学科5名、東が丘・立川看護学部10名となっています。団長は、医療保健学部看護学科の秋山美紀准教授で、その他の引率者は、高野講師(看護学科)、鈴木准教授(医療栄養学科)、杉田助教(医療情報学科)、小山助教(東が丘・立川看護学部)、早野国際交流アドバイザーです。

昨年度までは、全員でハワイ大学研修に参加し、その後、看護学生がシャミナード大学を訪問、医療栄養と医療情報の学生は病院などを訪問していましたが、本年度は、初めて参加学生全員が、ハワイ大学での研修とシャミナード大学での研修の両方に参加することになりました。



事前研修でシムマン(患者シミュレータ)の
オリエンテーションを受ける学生たち



木村学長から団旗を受け取る学生リーダーの八十濱希恵さん
(東が丘・立川看護学部看護学科3年次生)

ハワイ大学では、例年通り、高度シミュレータやその他の医療機器を使った演習授業、災害時の対応、ハワイの伝統文化などを中心に学習する予定です。

シャミナード大学では、今回3領域の学生を初めて迎えるにあたって、模擬患者を使ったシミュレーション学習を新たに組んでいただいています。本学学生のための対模擬患者シミュレーションのシナリオについて、本学からも今年度の引率教員を中心にシナリオ案を考え先方に伝えるなどシャミナード大学と協働作業をしました。その上で同大学のピーターソン講師が本学学生用に特別に作成したシナリオを準備くれました。全学生がそのシナリオを勉強し、交代でそのシミュレーション学習に参加する予定。その他、遠隔医療機器なども利用したハワイの在宅ケアの現状なども学習することになっています。

また、シャミナード大学では、同学学生との交流も行われる予定で、本学学生は、その交流イベントに向けてグループ毎に出し物の計画を練っています。

海外研修に向けた事前研修はこれまでに5回実施しました。学生はテーマを決めたグループワークを行ったり、シムマンや医療機器を使ったオリエンテーション授業なども受けており、現地研修に備えています。結団式は、学長を始め各副学長などをお迎えして、3月8日に実施しました。

トピックス Topics

早期入学決定者に授業体験会を実施しました。

AO入試や公募制推薦入学試験等により、早期に入学が決定した入学予定者に対する教育の1つとして、今年も12月23日(金)に授業体験会を実施しました。30名の入学予定者が1年次生の講義「体の仕組みと働きⅡ」に約40分程度参加し、大学での講義やノートの取り方などを体験しました。また、入学までの期間が有意義なものとなるようアカデミックスキルや看護に関するおすすめ図書、eラーニングを紹介しました。さらに、これから共に学ぶ仲間との交流や、在学生の体験談を聞くことで、「これからの大学生活の不安が和らいだ」「自分なりに大学生に向けての準備ができそうです！」などの感想が寄せられました。終始和やかな雰囲気、大学生活への期待にあふれる参加者の様子から、教員一同新学期の準備に万全を期したいと感じました。

第8回 せたがや福社区民学会大会について

平成28年度 第8回 せたがや福社区民学会大会が11月26日(土)に開催され、本学医療栄養学科学生(3年次生4名、4年次生3名)と本学教員2名が、世田谷区内で今まで実施してきた食育を含めたボランティア実践活動をパネル報告して、参加賞状を受け取りました。報告テーマは「区内インターナショナル幼稚園における郷土料理を用いた食育活動」や「食育ボランティア活動を通じた地域活動」や「障害者支援」についてでした。学生自身が経験を理論的に報告することにより、今後の学びをより深め、さらに合理的な実践活動に今後もつなげていくことをねらいとしています。

インドネシア人介護福祉士候補者との交流

経済連携協定(EPA)によるインドネシア人の介護福祉士候補者30名が、平成28年12月7日(水)に世田谷キャンパスを訪問し、医療情報学科3年次生13名、医療栄養学科4年次生12名と交流しました。病棟や介護現場での情報システムや、患者シミュレータ、介護場面での自助具の体験のほか、それぞれの将来像などについてグループワークを行いました。

音楽サークル「ダ・カーポ」のウィンターコンサートについて

本学の音楽サークル「ダ・カーポ」(9名)によるウィンターコンサートが12月26日(月)16時から東京医療センター1階外来ホールで行われ、患者さんをはじめ約100名もの多くの方にお越しいただきました。ウィンターソングをメインに演奏を行い、時折合唱も交えて6曲の演奏を行いました。映画「Sound of music」より「私のお気に入り」や坂本九メドレーの中の「上を向いて歩こう」の演奏は、年齢問わず多くの方が大変喜ばれておりました。終了後も、観客の皆様から大きな拍手をいただき大盛況のうちに終了いたしました。なお、東京医療センターより、院長名にて演奏をたたえる感謝状が授与されました。



編集 集 Editor's note 後記

いつまでも寒い日が続いていると思っているうちに、確実に花の蕾もふくらみ、春の訪れを予感させる今日この頃です。本号では、表紙の写真及び2頁目に渡り「和歌山看護学部」及び「千葉看護学部」の設置構想を紹介させていただきました。寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神を持った医療人を育てるために大学が開学してから10年、今まで様々な医療機関と連携をさせていただきながら現代の諸課題に対応できうる医療人を育成してきましたが、この2つの構想が実現すると年間の看護学生育成規模は日本有数になる見込みであり、看護の世界では開学から11年とまだまだ未熟ではありますが、本学の位置付けというも

のが確立できつつあることを実感しております。

新たな1歩を踏み出す時には、おのずと新たな目標を定め、そこに向かって進んでいくこととなりますが、現在、「学長室Project Team」という学長の下に各学科より選出された教員が集う組織が新設され、今後10年の東京医療保健大学の進むべき方向について、本学が建学の精神及び教育理念に基づき教育研究活動を展開していくための明るく夢と活力に満ちた「目指すべきビジョン」を定めようとする動きが始まりました。

東京医療保健大学は今、綺麗な花を咲かせるために蕾の中でコツコツと準備をしている真っ最中です。(A)